

<カナメモチ疫病>



立枯れの被害



葉脈に沿って進展する病斑



病原菌の遊走子のう

<カナメモチ疫病>

病原菌：*Phytophthora cactorum* (Lebert et Cohn) Schröter

1. 症 状

新出葉では暗褐色～黒色の病斑が葉柄および葉身の一部から葉脈に沿って、急速に進展し、葉身全面に拡り、次々に枯死落葉する。茎枝では地際部および中間部から黒色の病斑が拡大し、これは速やかに上下に伸長し、葉柄部から葉身へも拡る。株の先端は萎凋し、病斑が茎枝を取り巻くと病斑部から上部は枯死する。しばしば立枯れを生じる。

2. 生 態

2～3年生苗で発生が多い。5月下旬頃から発生するが、とくに6月中旬～7月中旬までの梅雨期間中に多発する。梅雨明け後は病勢は顕著に衰え、秋季の発生は少ない。セイヨウカナメモチ（レッドロビン）はほとんど被害を受けない。

3. 防 除

- 1) 排水を良好に保つ。 2) 落病葉、立枯れ苗を除去する。
- 3) 未登録だが、リドミルMZ水和剤は有効である。

4. 記 事

本症状は立川市で1984年から発生し、とくに1988年と1989年は被害が激しかった。